

## WFPと連携協定締結

### 高等教育機関としてアジア初の協定

十二月十三日、本学と国連世界食料計画(WFP)は、組織的な協力関係のさらなる強化を目的に連携協定書を締結した。国連唯一の食料支援機関であるWFPと国内の教育機関との連携協定の締結は、本学が初めて。これまでもWFP事務局長による講演、WFP職員との対話、WFPの遺・本学から学生インターシップへの個別参加に署名し、堅い握手を交わした。滝澤学長は「WFPの人道支援活動は、"Men and Women for others" による本学の教育精神と通じ合うものであり、本学の教育研究の基幹テーマである人権、平和、社会正義などを理論面、実践面で活用



滝澤学長とサレヒン WFP日本事務所代表  
同日行われた調印式で、滝澤学長とモハマッド・サレヒン WFP 日本事務所代表が協定書に署名し、堅い握手を交わした。滝澤学長は「WFPの人道支援活動は、"Men and Women for others" による本学の教育精神と通じ合うものであり、本学の教育研究の基幹テーマである人権、平和、社会正義などを理論面、実践面で活用

## 学生交流協定締結

十二月九日、上智大学と藤女子大学(北海道札幌市)が、学生交流協定を締結した。藤女子大学は、毎年一人の学生が相手先の大学で一年間学ぶことができる。履修した科目の単位は卒業単位に参入が可能で、学費は在籍大学にのみ納入する。同様の協定は清泉学院大学(長野市)、エリザベト音楽大学(広島市)、長崎純心女子大学(長崎市)に続き四校目である。藤女子大学は、本学と同じカトリックの大学であり、文学部(北16条キャンパス・札幌市)と人間生活学部、同研究科(花川キャンパス・石狩市)からなる。学生数は二千二百二十五人(二〇一一年五月現在)。喜田勲藤女子大学学長は、二〇一一年まで本学神学学部教授として両校の交流をますます深めていきたいと、今後の連携強化に向けて、今回の協定調印式



滝澤学長と握手する藤女子大学の喜田学長  
十二月九日、上智大学と藤女子大学(北海道札幌市)が、学生交流協定を締結した。藤女子大学は、毎年一人の学生が相手先の大学で一年間学ぶことができる。履修した科目の単位は卒業単位に参入が可能で、学費は在籍大学にのみ納入する。同様の協定は清泉学院大学(長野市)、エリザベト音楽大学(広島市)、長崎純心女子大学(長崎市)に続き四校目である。藤女子大学は、本学と同じカトリックの大学であり、文学部(北16条キャンパス・札幌市)と人間生活学部、同研究科(花川キャンパス・石狩市)からなる。学生数は二千二百二十五人(二〇一一年五月現在)。喜田勲藤女子大学学長は、二〇一一年まで本学神学学部教授として両校の交流をますます深めていきたいと、今後の連携強化に向けて、今回の協定調印式



クリスマス・イブ 7号館に灯る光の十字架  
写真・KEIGADDO

## 創立百周年記念事業 ジョン・ニッセル杯

十二月十七日、第一回「セル杯」が十号館講堂で上智大学全国高校生英語弁論大会「ジョン・ニッセル杯」が開催された。私立開明高等学校(大阪府)一年生の山本菜々子さんが優勝し、審査委員長を務めたスコット・ハウエル教授より記念カップが授与された。この弁論大会は、外国語学部英語学科が主催となり、創立百周年記念事業の一環として創設された。全国から二百四十五人の応募があり、一次審査を通過した二十人が本選に臨んだ。本選では持ち時間五分でのスピーチと質疑応答が行われ、審査員は英文法、発音、プレゼンテーション技術のほか、テーマ選択、文章構成、スピーチの説得力や内容など、英語力を総合的に評価された。「二位に選ばれたとは思っていませんでした。本当に嬉しかったです。スピーチでは自分の意見や思いをしっかり伝えることができた。たくさん練習した甲斐があった」と優勝の喜びを語った。また、今回の弁論大会の運営委員長を務めた



優勝した山本菜々子さん

## アンコール文化遺産教育研究センター 開所式典が行われる

十二月十四日、カンボジア・シェムリアップのバンテアイ・クテイ遺跡において、アンコール文化遺産教育研究センターの開所式典が執り行われ、本学から佐久間勲力、トリック指導担当理事、石澤良昭アジア人材養成研究センター所長が出席した。同センターは、日本の草の根文化無償協力資金を通じて建設され、地元住民と遺跡専門家の交流、小中学生への文化遺産教育、観光客への遺跡案内を目的としている。アサハラ・カンボジア政府アンコール地域保存センターは、二〇一一年に、遺跡保存のための人材養成の一環で行われていた発掘実習中に、アンコール王朝の歴史を塗り替える大発見とまで言われた二百七十四体の廃仏が発掘された場所である。高井弁論大会となった。今後とも英語に関心のある多くの高校生に挑戦してもらいたい」と述べ、やかな雰囲気の中、歓談が行われた。



バンテアイ・クテイ遺跡に建設された

救世軍プロジェクトに参画、備蓄用食糧が学内に搬入  
本学は、創立百周年記念事業の一貫として、「救世軍と鶴のCANプロジェクト」と題し、非常食備蓄による飢餓救済活動を行う。  
これは、那須塩原市の株式会社パン・アキモト国際義援事業本部が製造している「パンの缶詰」(賞味期限三年)を、災害用備蓄食糧として二年間備蓄した後、賞味期限の一年前に世界の飢餓に苦しむ地域や被災地に義援物資として送るもの。  
今年の九月八日に、パニに苦しむ国々へ、義援物資として国際貢献に役立つ。  
創立百周年記念事業では、引き続き本学の教育精神「Men and Women for Others」を体現するプロジェクトを行っている。

搬入されたパンの缶詰